

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	郡山女子大学短期大学部
設置者名	学校法人郡山開成学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
郡山女子大学 短期大学部	健康栄養学科	夜・通信		11	6	17	7	
	幼児教育学科	夜・通信		10	8	18	7	
	地域創成学科	夜・通信			19	19	7	
郡山女子大学 短期大学部 専攻科	文化学専攻	夜・通信			16	16	7	
	幼児教育学専攻	夜・通信			10	10	7	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

本学のホームページにより公表している。

<https://www.koriyama-kgc.ac.jp/aboutus/kyoiku>

(教育情報の公開－実務経験のある教員が担当する授業科目)

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	郡山女子大学短期大学部
設置者名	学校法人郡山開成学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

本学のホームページにより公表している。 https://www.koriyama-kgc.ac.jp/aboutus/gaiyo （法人概要－概要－役員等）
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	株式会社役員	2025.5.29 ～選任後4年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時まで	総務担当
非常勤	学校法人（他法人）役員	2025.5.29 ～選任後4年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時まで	総務担当
（備考）			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	郡山女子大学短期大学部
設置者名	学校法人郡山開成学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。

(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)

本短期大学部における授業計画(シラバス)は科目名・担当者・開講期・対象者・授業概要・達成目標・受講資格・成績評価方法・教科書・参考書・学生への要望・オフィスタイムの項目から成っている。また授業内容とスケジュールとして各回の項目・授業内容を公開するとともに、各回で自学自習すべき内容・目安時間を提示することとしている。

シラバスの作成に関して、本短期大学部では記載漏れ等がないか教務委員によるチェックを行っている。指定期日(3月10日頃)までに授業の主担当者はシラバスを作成し履修登録用システムに登録するとともに、教務委員へシラバスの提出を行う。提出されたシラバスは教務委員により必要事項が正しく記載されているか確認表をもとにチェックが行われる。シラバスに不備がある場合は授業の主担当者へ不備事項が連絡されるので、主担当者は再度修正ののち指定期日(3月末日頃)までにシラバスをシステムに登録するとともに、修正したシラバスを教務委員に提出する。教務委員は提出されたシラバスを確認し、問題がなければ確認表とシラバスを教務部に提出する。以上の手続きによりシラバスは確認されシステムと紙媒体に保存される。以上の手続きにより、学生に公開されるシラバスの適切性を担保している。

授業計画の公表時期は、学内には4月第1週(学生へのオリエンテーション前)に公開している。これは学生の授業選択に活用できるようにするためである。また学外には5月下旬に本学のウェブ上で公表している。

授業計画書の公表方法	学内へは履修登録用システムにより、学外へは本学のホームページにより公表している。 https://www.koriyama-kgc.ac.jp/aboutus/kyoiku (教育情報の公開－授業科目、授業の方法・内容並びに年間の授業の計画 コース、学科ごとに掲載している)
------------	---

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

学修意欲の把握は授業評価アンケートおよび学生生活アンケートを実施し、全般的な学修意欲の把握に努めている。

学修成果の厳格かつ適正な評価への対応として、授業への出席数の基準および成績評価基準を設けている。本学では各科目の単位修得要件として、授業への 2/3 以上の出席を義務付けている。また成績の評価区分を設けて評価内容を示すことで、各授業における評価の意味付けを明確にしている。これらの内容は「単位履修の手引き」として整備されており、「単位履修の手引き」を全学生に配布し、単位認定等の基準・方法を学生に周知をしている。

出席は各授業時に教員が確認するとともに、授業担当者が出席情報をシステム上に登録することで学生が各授業の出席数を確認できるようにしている。特殊な事情による欠席への対応を行った場合は、対応内容をシステム上に記録し、把握できるようにしている。

成績評価に関しては、シラバス上に評価基準を明記し、提示した評価基準に基づき成績評価を行っている。成績評価を行う際には試験やレポートが課されることが多い。評価した成績が適切であったか事後に確認できるように、答案やレポートは 1 年間（実施した年度の翌年度中）の保存を義務付けている。

以上の対応により、学修成果を厳格かつ適正に評価し、単位の認定を行っている。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

成績評価の指標として平均点および Grade Point Average (GPA) を利用している。本短期大学部では GPA を進級要件や学習指導等に利用している。このため、GPA はあらかじめ設定された計算方法に従い、教務部にて算出されている。

本学ではアドバイザー(クラス担任)を通じて成績通知書を配付しており、平均点および GPA はこの通知書を通じて学生に伝達されている。またアドバイザーにクラスの学生の成績一覧 (GPA・平均点を記載) を配付している。成績一覧を用いて、アドバイザーはクラスの学生の成績状況 (GPA・平均点等) を把握し、学修指導を行っている。

学生はアドバイザーから配付される成績通知書に加え、コンピュータ・システム上から GPA や成績を確認することができる。

GPA の計算方法は次の通りである。まず 0 点から 100 点までの範囲で付与された点数に対し、点数により GP を付与する。具体的には 100 点以下 90 点以上は GP を 4、89 点以下 80 点以上は GP を 3、79 点以下 70 点以上は GP を 2、69 点以下 60 点以上は GP を 1、59 点以下 0 点以上は GP を 0 とし、単位数による加重平均により GPA を算出する。

以上の通り、平均点と GPA を用いた成績状況の把握を行っている。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

学生には「単位履修の手引き」により、学外へは本学のホームページにより公表している。

<https://www.koriyama-kgc.ac.jp/aboutus/kyoiku>

(教育情報の公開－学修成果の評価及び卒業・修了認定の基準－卒業要件、科目の履修と単位、GPA 制度)

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

卒業の認定および学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）の策定は、各学科にて策定し、認定方針を短期大学部として確定・公表することとしている。

卒業の認定・学位授与方針は学科毎に異なる。

健康栄養学科

学科の目的に鑑み、本学所定の単位を修得し、次の成果が得られた学生に卒業を認定し、短期大学士（家政学）の学位を授与します。

- 1) 食と健康の関わりについて科学的に理解する能力を修得している。
- 2) 健康的な食生活を実践するための基本的技術が身につけている。
- 3) 食と栄養の専門性を発揮して、サービスの精神に基づいて社会に貢献する素養が身につけている。
- 4) 論理的思考と倫理観によって、食と栄養に関わる諸問題に対処する能力を修得している。
- 5) 卒業要件を満たし、GPA1.6 以上を修めている。

幼児教育学科

幼児教育学科所定の単位を修得し、以下の知識・能力を身につけ、GPA1.5 以上の学生に対して卒業を認定し、短期大学士（教育学）の学位を授与します。

教育・保育の本質を理解し、保育者としての専門性を身につけている。専門性とは下記のとおりである。

- ・教育・保育を総合的に計画して実践できる力を身につけている。
- ・多様な子どもを支援するための方法や技術を身につけている。
- ・教育・保育に関する課題や問題を解決する能力が育っている。
- ・幅広い教養を身につけ他者と関わる力を身につけている。
- ・チャイルド・ミュージックコースにおいては、一定水準以上の音楽表現力が身につけている。

地域創成学科

建学の精神に基づく教育目的に従い、以下に掲げる知識や資質を身につけ、所定の単位を取得した GPA1.4 以上の学生に対し、短期大学士（地域創成）の学位を授与します。

- 1) 身近な生活圏の歴史や文化を理解し、専門教育の実践を通して地域社会に貢献できる力を身につけている。
- 2) 個々の感性を生かす柔軟で応用力のある創造的思考力を身につけている。
- 3) 地域社会において柔軟に対応できるコミュニケーション力を生かしながら、現代社会の多様な課題を発見し、それらを自らの力で分析し解決する能力を身につけている。
- 4) 専門的知識を活用しながら論理的に課題を探究し、他者と協調して問題を解決していく主体的行動力を身につけている。

専攻科文化学専攻

以下にかかげる知識や資質を身につけ、所定の単位を修得し GPA2.0 以上の学生に対して本学が評価を行い、「大学評価・学位授与機構」が審査し、学士（文学）の学位を授与します。

- 1) 専門的科目において、専門的知識を修得している。
- 2) 専門的科目において、研究能力が身につけている。
- 3) 研究課題を適切な歴史学のテーマに設定する知識が身につけている。
- 4) 研究課題の成果である論文を論理的、創造的にまとめる力が身につけている。

- 5) 歴史学を専攻する学士（文学）の学位を取得することで、社会教育の充実発展に寄与できる能力が身につけている。

専攻科幼児教育学専攻

専攻科幼児教育学専攻の所定の単位を修得し、学位授与機構の最終試験に合格し、以下の知識・能力を身につけ、GPA2.0以上の学生に対して修了を認定し、学士（教育学）の学位を授与します。

- 1) 専門的学識：社会や保護者のニーズに対応でき、幼児教育・保育に関する高度な専門知識を修得している。
- 2) 問題発見・解決力：多様化・高度化する幼児教育・保育の課題を自ら見つけ出し、調査・考察などに基づいて、問題を解決する能力を身につけている。
- 3) 社会貢献力：保育者としての責任のある行動をすることにより、他者と協働して幼児教育・保育の発展に積極的に貢献しようとする意欲・態度を身につけている。
- 4) キャリア形成力：保育者として教養のある幅広い知識を持ち、生涯にわたって幼児教育・保育への関心・情熱と学習意欲を持続することができる。

卒業認定は教授会にて行っている。2年次成績の確定した3月上旬に、事前に主任教授会（出席者：学長、各学科主任および副主任）内において、各学生の単位取得状況・生活状況などを、卒業の認定方針に基づき、卒業の可否を確認している。その後、教授会にて各学生の単位取得状況・生活状況などを確認し、卒業の認定方針に基づき、卒業の可否を判定している。

卒業の認定に関する 方針の公表方法

学内には「単位履修の手引き」により、学外へは本学のホームページにより公表している。

<https://www.koriyama-kgc.ac.jp/aboutus/kyoiku>

（教育情報の公開－教育研究上の目的－ディプロマポリシー）

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	郡山女子大学短期大学部
設置者名	学校法人郡山開成学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	本学のホームページにより公表している。 https://www.koriyama-kgc.ac.jp/aboutus/zaimu (財務情報－決算概要－貸借対照表)
収支計算書又は損益計算書	本学のホームページにより公表している。 https://www.koriyama-kgc.ac.jp/aboutus/zaimu (財務情報－決算概要－事業活動収支計算書)
財産目録	本学のホームページにより公表している。 https://www.koriyama-kgc.ac.jp/aboutus/zaimu (財務情報－決算概要－財産目録)
事業報告書	本学のホームページにより公表している。 https://www.koriyama-kgc.ac.jp/aboutus/jisseki (事業報告書－令和6年度事業報告書)
監事による監査報告(書)	本学のホームページにより公表している。 https://www.koriyama-kgc.ac.jp/aboutus/zaimu (財務情報－監査報告書)

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 本学のホームページにより公表している。 https://www.koriyama-kgc.ac.jp/aboutus/kyoiku (教育情報の公開－自己点検・評価)

(2) 認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法：本学のホームページにより公表している。

<https://www.koriyama-kgc.ac.jp/aboutus/kyoiku>

（教育情報の公開－大学・短期大学部 機関別認証評価）

<https://www.koriyama-kgc.ac.jp/aboutus/hyoka>

（第三者評価－平成21年度・28年度・令和5年度－評価報告書）

(3) 学校教育法施行規則第172条の2第1項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 郡山女子大学短期大学部
教育研究上の目的 （公表方法：本学のホームページにより公表している。） https://www.koriyama-kgc.ac.jp/aboutus/gakusoku （学則）
（概要） 短期大学部における教育研究上の目的は、高等教育の基礎の上に二年の実際的な専門的職業に重きをおく大学教育を施し、人間の平等的価値を基として人間性の高揚を図り、女性の自主独立の精神を培い、文化国家、協力社会の形成と世界平和の確立とに貢献し、もって人類の福祉を増進しようとする人物を育成すること、である。前述の目的を達成するため、各学科の教育研究上の目的は下記のとおりである。 健康栄養学科では、国民の健康の保持増進に貢献できる人材を養成する。 幼児教育学科では、子どもの健全な発育を援助できる人材を養成する。 地域創成学科では、変化する地域社会において、創造的継続的に貢献できる人材を養成する。 専攻は、「独立行政法人大学改革支援・学位授与機構」による認定専攻科として学士への道を拓き、文化学専攻は短期大学部地域創成学科における、幼児教育学専攻は短期大学部幼児教育学科における専門教養の基礎のうえに、さらに、その学識を深め、専攻分野の研究能力を培い、社会教育の充実発展に貢献できる人材を養成する。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：学内には「単位履修の手引き・入学者選抜実施要項」により、学外へは本学のホームページにより公表している。） https://www.koriyama-kgc.ac.jp/aboutus/kyoiku （教育情報の公開－教育研究上の目的－ディプロマポリシー）
（概要）

卒業の認定および学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）の策定は、各学科にて策定し、認定方針を短期大学部として確定・公表することとしている。
卒業の認定・学位授与方針は学科毎に異なる。

健康栄養学科

学科の目的に鑑み、本学所定の単位を修得し、次の成果が得られた学生に卒業を認定し、短期大学士（家政学）の学位を授与します。

- 1) 食と健康の関わりについて科学的に理解する能力を修得している。
- 2) 健康的な食生活を実践するための基本的技術が身についている。
- 3) 食と栄養の専門性を発揮して、サービスの精神に基づいて社会に貢献する素養が身についている。
- 4) 論理的思考と倫理観によって、食と栄養に関わる諸問題に対処する能力を修得している。
- 5) 卒業要件を満たし、GPA1.6 以上を修めている。

幼児教育学科

幼児教育学科所定の単位を修得し、以下の知識・能力を身につけ、GPA1.5 以上の学生に対して卒業を認定し、短期大学士（教育学）の学位を授与します。

教育・保育の本質を理解し、保育者としての専門性を身につけている。専門性とは下記のとおりである。

- ・教育・保育を総合的に計画して実践できる力を身につけている。
- ・多様な子どもを支援するための方法や技術を身につけている。
- ・教育・保育に関する課題や問題を解決する能力が育っている。
- ・幅広い教養を身につけ他者と関わる力を身につけている。
- ・チャイルド・ミュージックコースにおいては、一定水準以上の音楽表現力が身につけている。

地域創成学科

建学の精神に基づく教育目的に従い、以下に掲げる知識や資質を身につけ、所定の単位を取得した GPA1.4 以上の学生に対し、短期大学士（地域創成）の学位を授与します。

- 1) 身近な生活圏の歴史や文化を理解し、専門教育の実践を通して地域社会に貢献できる力を身につけている。
- 2) 個々の感性を生かす柔軟で応用力のある創造的思考力を身につけている。
- 3) 地域社会において柔軟に対応できるコミュニケーション力を生かしながら、現代社会の多様な課題を発見し、それらを自らの力で分析し解決する能力を身につけている。
- 4) 専門的知識を活用しながら論理的に課題を探究し、他者と協調して問題を解決していく主体的行動力を身につけている。

専攻科文化学専攻

以下にかかげる知識や資質を身につけ、所定の単位を修得し GPA2.0 以上の学生に対して本学が評価を行い、「大学評価・学位授与機構」が審査し、学士（文学）の学位を授与します。

- 1) 専門的科目において、専門的知識を修得している。
- 2) 専門的科目において、研究能力が身についている。
- 3) 研究課題を適切な歴史学のテーマに設定する知識が身についている。
- 4) 研究課題の成果である論文を論理的、創造的にまとめる力が身についている。
- 5) 歴史学を専攻する学士（文学）の学位を取得することで、社会教育の充実発展に寄与できる能力が身についている。

専攻科幼児教育学専攻

専攻科幼児教育学専攻の所定の単位を修得し、学位授与機構の最終試験に合格し、以下の知識・

能力を身につけ、GPA2.0 以上の学生に対して修了を認定し、学士（教育学）の学位を授与します。

- 1) 専門的学識：社会や保護者のニーズに対応でき、幼児教育・保育に関する高度な専門知識を修得している。
- 2) 問題発見・解決力：多様化・高度化する幼児教育・保育の課題を自ら見つけ出し、調査・考察などに基づいて、問題を解決する能力を身につけている。
- 3) 社会貢献力：保育者としての責任のある行動をすることにより、他者と協働して幼児教育・保育の発展に積極的に貢献しようとする意欲・態度を身につけている。
- 4) キャリア形成力：保育者として教養のある幅広い知識を持ち、生涯にわたって幼児教育・保育への関心・情熱と学習意欲を持続することができる。

卒業認定は教授会にて行っている。2年次成績の確定した3月上旬に、事前に主任教授会（出席者：学長、各学科主任および副主任）内において、各学生の単位取得状況・生活状況などを、卒業の認定方針に基づき、卒業の可否を確認している。その後、教授会にて各学生の単位取得状況・生活状況を確認し、卒業の認定方針に基づき、卒業の可否を判定している。

教育課程の編成及び実施に関する方針

（公表方法：学内には「単位履修の手引き・入学者選抜実施要項」により、学外へは本学のホームページにより公表している。）

<https://www.koriyama-kgc.ac.jp/aboutus/kyoiku>

（教育情報の公開－教育研究上の目的－カリキュラム・ポリシー、カリキュラム・マップ）

（概要）

教育課程の編成及び実施に関する方針は、各学科で策定している。

健康栄養学科

健康栄養学科は、食と栄養に関する専門知識と実践力からなる専門性を発揮して、健康で豊かな生活を営むことができる人間の育成を進めています。この教育目的を果たすため、社会の期待に応える栄養士とフードスペシャリストの育成を教育目標とします。このため、次のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）により、「単位の実質化」に配慮して入学から卒業まで効果的な学修が行えるようカリキュラムを編成します。

- 1) 建学の精神と専門科目の理解に必要な共通基礎科目、食と栄養に関する基本的な専門科目を卒業必修科目として開講します。
- 2) 建学の精神に基づく人格形成と専門の探求のための科目を選択科目として開講します。
- 3) 栄養士とフードスペシャリストの養成を目標に栄養士課程とフードスペシャリスト課程を設け、必要な科目をそれぞれの課程の必修科目として開講します。
- 4) 栄養士課程の必修科目で栄養士業務の実務を学ぶ給食論実習Ⅲ（校外実習）には履修要件を設けて、履修する学生のレベルを対外的に保証します。
- 5) 高等学校までの復習を含む基礎的科目として、基礎自然科学、自然科学（化学）、自然科学（生物）を1年次に必修科目として開講します。
- 6) 基本的な科目から応用的な科目へと系統的に学べるように開講時期を配置します。
- 7) 卒業学年の12月に実施されるフードスペシャリスト資格認定試験と栄養士実力認定試験に対応できるよう開講時期を調整します

幼児教育学科

教育・保育の本質を理解する専門知識と技能、幅広い教養を身につけた保育者を育成するため、

以下のような方針に基づきカリキュラムを編成しています。

- ・教育・保育の内容・方法を学ぶ科目を設けます。
- ・教育・保育を総合的に計画・実践するための科目を設けます。
- ・子どもの発達を理解し、子どもの支援について学ぶ科目を設けます。
- ・教育・保育の問題を解決する能力を育成するために「卒業研究」を必修とします。またチャイルド・ミュージックコースにおいては、全員ミュージカルを選択します。
- ・チャイルド・ミュージックコースにおいては、音楽の専門科目を設けます。

地域創成学科

文化、歴史、芸術、情報などの専門の学修を通して、継続的に社会貢献ができる総合的な人間力を持つ人材の育成を目的とします。そのために、地域社会と連携した実践教育（アクティブラーニング）を行うことで、卒業後、地域社会の一員として活躍できるよう、以下の項目を編成しています。

- 1) 1年次に入門、概論などの基礎教育科目を置き、2年次より専門性に特化した専門教育科目を編成します。
- 2) 「地域創成ゼミナールⅠ・Ⅱ」「地域創成プロジェクト演習」科目を開講することで、地域社会の創成に力を発揮できる人材を育成します。
- 3) 二年間の集大成として「卒業研究」などの科目において、自ら問題意識を持って学びを迫ることができる探求力を身につけます。
- 4) 資格取得に必要な科目の多くは卒業要件の科目としても認められ、効率の良い履修が可能となり、多様な資格と知識・技能の修得を目指せるカリキュラム編成とします。
- 5) 司書および学芸員補の資格取得に必要な科目を開講します。また専門職員として必要な歴史・文化関連科目を設置して幅広い教養を学修するための専門的な教育プログラムを実施し、知識と実践力を身につけることを目指します。
- 6) 芸術と人間社会における諸問題との関係を総合的に捉え、新しい社会に対応してアートやデザインの基礎知識や技術を活用できる教育を実施します。
- 7) ビジネス実務士、情報処理士の資格取得に必要な科目を開講し、社会生活に役立つ情報活用能力を身につけます。
- 8) 社会福祉主事（任用資格）の資格取得に必要な科目を開講し、地域創成プロジェクト演習等を通して、専門知識と共に実践的な技能の育成を目指します。

専攻科 文化学専攻

本学専攻科は、学位与機構が認定した「特例適用専攻科」である。学修総まとめ科目の「文化史総合演習」において、2年間の学修成果が評価され、合格するための専門教育が体系的に学修できるよう教育編成をしています。学位授与機構より学士（文学）の学位を取得することを目指します。

- 1) 多様な歴史や文化のあり方を認識するために、1年において「文化史概論」を必修とし歴史学の本質を学修します。
- 2) 学修成果の研究テーマは1年の早い段階に決定し、指導教員のもとで準備を始めます。
- 3) 研究テーマに関連した授業を中心に選択できるように科目を設置します。
- 4) 「履修計画書」を学位授与機構に提出し、「文化史総合演習」（必修）において学修・探究成果の小論文を完成し、「成果の要旨」を学位授与機構に提出します。
- 5) 学芸員課程を修了し、専攻科において学士（文学）を取得することで、学芸員の資格を得られる教育プログラムを編成しています。
- 6) 日本史、西洋史、考古学、美術史、宗教文化史、女性史など、歴史学を多角的に探求できるカリキュラムを構成し、学芸員の資格取得のための専門的科目を設置します。
- 7) 専門職につくために、積極的な支援体制を編成しています

専攻科 幼児教育学専攻

- 1) 子どもの知的な成長について、より学識を深めるための科目を設けます。
- 2) 家族支援を含めた子どものケアの方法について、学べる科目を設けます。
- 3) 保育内容やその指導法について、実践力を高める演習科目を設けます。
- 4) 地域の保育に関連する実情について、学べる科目を設けます。
- 5) 保育に関連した社会の実情について、知見を広げる科目を設けます。
- 6) 学士（教育学）にふさわしい、論文作成能力を培う科目を設けます。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：学内には「入学者選抜実施要項」により、学外へは本学のホームページにより公表している。）

<https://www.koriyama-kgc.ac.jp/aboutus/kyoiku>

（教育情報の公開－教育研究上の目的－アドミッションポリシー[短大]）

（概要）

入学者の受入れに関する方針は、各学科で策定している。

健康栄養学科では、建学の精神に立脚し、期待される社会人になれるよう人間性を育み、知性及び感性の向上をめざすと共に、健康で豊かな生活を営むことができる人間の育成をはかることを目的とし、栄養士とフードスペシャリストの養成を目標としている。そのため、食と栄養の専門家を目指して自ら進んで学ぶ意欲を持っている人、短大で学ぶ教養と専門の教科を理解するための基礎能力のある人、コミュニケーション能力があり、サービス精神が理解できる人を、求める学生像としている。

幼児教育学科では、建学の精神を基に、豊かな人間性を備えた保育者の育成を目指し、幼稚園教諭と保育士の養成を目的としている。そのため、子どもを心から愛し、子どもの心に寄り添える人、保育への関心が高く、研究心旺盛な人、目標を高く持ち、努力を惜しまない人、自己の欠点を是正し、他者をも大切にできる人、明るく、笑顔のすてきな人、を求める人物像としている。チャイルド・ミュージックコースにおいては、前述の事項に加え、音楽的経験のある人を、求める学生像としている。

地域創成学科では、建学の精神を基に、地域連携教育を中心とした多様な学びにより創造力、コミュニケーション能力を伸ばし、地域の発展に取り組む力を身につけ、図書館司書、博物館学芸員補、デザイナー、イベントスタッフ、一般事務など多様な専門分野を複合的に学ぶことで、社会貢献の目的意識に合った能力を持つ人物の育成を、目的としている。そのため、目標に向かって、着実な努力を継続して行える人、地域社会の一員として、自己の能力と個性を生かし、人や社会に貢献する意識を持つ人、幅広い関心を持ち、物事を多面的に捉えようとする人、人と地域とのつながりを大切にし、学んだことを地域に発信できる人、を求める学生像としている。

専攻科文化学専攻では、歴史や文化を体系的に学び豊かな人間性を培い、幅広く多様な教養を身につけることを理念とし、グローバル化する社会的・文化的状況の中で専門性の基礎・基本を重視しつつ、関連諸科学との関係、学問と個人の価値観、及び現実社会との関係を学びの中で考えることを目標としている。そのため、短期大学あるいは高等専門学校で学んだ人で専門的な歴史や文化についての知識を持ち、それを創造的に活用できる人、歴史や文化についての専門的知識を専門職の中で生かそうという意欲を持つ人、歴史や文化についての専門知識によって現実の諸問題を解決しようとする行動力をもつ人、を求める学生像としている。

専攻科幼児教育学専攻では、一人の人間として個の確立を図り、社会貢献を意図した女子教育

を目指す建学の精神において、人間性豊かで有能な専門的指導力を備えた保育者の養成を理念とし、幼児教育についてのより高度な知見を獲得し、保育現場において、子どもたちの健全な発育発達の援助のあるべき姿を志向し、自らあるいは他者と協働して課題解決に挑む能力を培っていくことを目標とする。そのため、幼児教育・保育に関する高度な専門性を身につけ、幼児教育学について深く学びたいという強い意志をもち、学士（教育学）の学位取得を目指す人、幼児教育・保育の課題を自ら見つけ出し、自ら課題の解決に取り組むことができる人、自分の考えを文章や言葉で表現し、他者と協働して幼児教育・保育の理解を深めたい人、を求める学生像としている。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：本学のホームページにより公表している。

<https://www.koriyama-kgc.ac.jp/aboutus/kyoiku>

（教育情報の公開－教育研究上の基本組織－学科構成組織図）

<https://www.koriyama-kgc.ac.jp/aboutus/enkaku>

（学園の沿革歴史－学園の沿革・組織図－組織図）

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）

学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	1人	－	－	－	－	－	1人
健康栄養学科	－	2人	3人	1人	1人	人	7人
幼児教育学科	－	5人	3人	4人	2人	人	14人
地域創成学科	－	4人	4人	3人	1人	人	12人

b. 教員数（兼務者）

学長・副学長	学長・副学長以外の教員	計
1人	29人	30人

各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）	公表方法：本学のホームページにより公表している。 https://www.koriyama-kgc.ac.jp/aboutus/kyoiku （教育情報の公開－教員組織、教員数並びに教員の保有する学位・業績－教員一覧（職位・学位・業績）、年度毎の研究業績・社会活動）
------------------------------	---

c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
健康栄養学科	70 人	23 人	32.9%	140 人	60 人	42.9%	人	人
幼児教育学科	140 人	60 人	42.9%	280 人	153 人	54.6%	人	人
地域創成学科	80 人	61 人	76.2%	160 人	123 人	76.9%	人	人
合計	290 人	144 人	49.7%	580 人	336 人	57.9%	人	人
専攻科 文化学専攻	10 人	9 人	90.0%	20 人	17 人	85.0%	人	人
専攻科 幼児教育学専攻	10 人	1 人	10.0%	20 人	7 人	35.0%	人	人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
健康栄養学科	45 人 (100%)	7 人 (15.6%)	38 人 (84.4%)	0 人 (0.0%)
幼児教育学科	76 人 (100%)	3 人 (3.9%)	73 人 (96.1%)	0 人 (0.0%)
地域創成学科	69 人 (100%)	13 人 (18.8%)	50 人 (72.5%)	6 人 (8.7%)
合計	190 人 (100%)	23 人 (12.1%)	161 人 (84.7%)	6 人 (3.2%)
専攻科 文化学専攻	3 人 (100%)	0 人 (0.0%)	3 人 (100%)	0 人 (0.0%)
専攻科 幼児教育学科	3 人 (100%)	0 人 (0.0%)	3 人 (100%)	0 人 (0.0%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
株式会社メフォス(8)、株式会社 LE0C(6)、株式会社山王東北事業部(5)、日清医療食品株式会社(3)、株式会社グリーンハウス(3)、須賀川信用金庫(3)、一般財団法人太田綜合病院、エームサービス株式会社、株式会社ニッコトラスト、株式会社どんどん、株式会社いわせ食品、シダックスフードサービス株式会社、東急リゾーツ&ステイ株式会社、トキワ印刷株式会社、永山歯科クリニック、日本給食株式会社、富士産業株式会社、有限会社小針鉄工所、有限会社日本クオリティセンター、社会福祉法人矢吹厚生事業所わーくる矢吹、有限会社大将、株式会社内山回漕店学校法人聖和学園 幼保連携型認定こども園 ポプラの木(4)、学校法人小原田学園認定こども園こはらだ幼稚園(3)、学校法人聖和学園認定こども園野のはな(3)、社会福祉法人白河学園児童養護施設白河学園(2)、学校法人吉野学園認定こども園わかば幼稚園(2)、株式会社光ひかり保育園(2)、郡山市子ども子育て支援企業組合 あい・サポ保育園				

(2)、福島県郡山市開成保育所、福島県郡山市永盛保育所、福島県本宮市立みずいろ保育所、福島県平田村立ひらたこども園、福島県矢祭町立やまつりこども園、福島県塙町立はなわこども園、学校法人今泉学園双葉第二幼稚園、学校法人尚志学園尚志緑ヶ丘幼稚園、学校法人宮澤学園富田幼稚園、学校法人栄光学園オリーブの木、学校法人専念寺学園認定こども園ぼだい樹白河幼稚園、学校法人たから学園たから幼稚園、学校法人辻学園田村町つつみ幼稚園、学校法人中沢学園菅原若葉こども園、学校法人中沢学園みなみ若葉こども園、学校法人東明とうみょう子ども園、学校法人福島文化学園福島文化幼稚園、学校法人星学園錦星こども園、学校法人宮澤学園富田幼稚園、株式会社アソシエ・インターナショナル港区青南保育室、株式会社ミアヘルサミアヘルサ保育園ひびき豊洲、公益財団法人鉄道弘済会郡山保育所、公益財団法人星総合病院こども事業部三春町第1保育所、公益財団法人星総合病院こども事業部三春町第2保育所、社会福祉法人たかはら学園、社会福祉法人アイリス学園児童養護施設アイリス学園、社会福祉法人安積愛育園通所支援事業所チエロ、社会福祉法人アップルピッコロ保育園、社会福祉法人啓和会塩川のびやか保育園、社会福祉法人優樹福祉会地域生活サポートセンターサニーデイ、社会福祉法人ひふみ会 ひふみ保育園、社会福祉法人東京児童協会 船堀中央保育園、福島県西会津町社会福祉協議会 西会津町立西会津町こゆりこども園、社会福祉法人福島県社会福祉事業団 福島県からまつ荘、社会福祉法人福島県社会福祉事業団 福島県ばんだい荘わかば、社会福祉法人福島県社会福祉事業団 福島県ばんだい荘おあば、学校法人松崎学園神谷こども園、株式会社ニチイ学館 ニチイキッズ郡山エスパール保育園、学校法人エムポリウム学園 エムポリウム並木保育園、学校法人若松幼稚園認定こども園若松第一幼稚園、学校法人黒磯幼稚園認定こども園黒磯幼稚園、学校法人聖公会頌栄学園セントポール幼稚園、学校法人多田野学園 多田野幼稚園、株式会社SEI喜羅里 きらり保育園 塩川ドレミ、学校法人浄徳学園 みどり幼稚園、郡山市子ども子育て支援企業組合 あい・サポ文助保育園、児童発達支援事業所はなはな、社会福祉法人千葉福祉会八山田保育園ひだまり分園、社会福祉法人 高田幼児幼保連携型認定こども園ひかり、社会福祉法人那須若葉会 とようら保育園、社会福祉法人桜が丘学園 桜が丘愛生園、特定非営利活動法人郡山のびのび福祉会めばえ学園、特定非営利法人かぜの wa、島村楽器株式会社、有限会社坂下リサイクルサービス、株式会社ダイユーエイト(3)、郡山信用金庫(2)、株式会社ニラク(2)株式会社山王東北事業部(2)、イオン東北株式会社、イオンビッグ株式会社、株式会社ヨークベニマル、株式会社 大東銀行、株式会社 東邦銀行、キヤル株式会社、グラントマト株式会社、シンテックス株式会社、株式会社ラウンドワンラウンドワンスタジアム郡山店、マンパワーグループ株式会社、株式会社テクノプロ テクノプロ・IT 社、医療法人社団ナイズ、医療法人社団平成会、株式会社コジマ、株式会社栄楽館ホテル華の湯、株式会社ウィルオブ・コンストラクション、株式会社ファーイーストカンパニー、福島産業株式会社、日産プリンス福島販売株式会社、北良株式会社、須賀川建設協同組合、株式会社東横イン福島駅東口2、株式会社ドウ・プランニング、株式会社あおき、株式会社 ESACREATE、株式会社平山、共同エンジニアリング株式会社、株式会社ライト・エージェンシー、株式会社ホンダカーズ栃木中央、小林クリエイト株式会社、高橋電機株式会社、社会福祉法人安積福祉会、日本テーマパーク開発株式会社、東日本三菱自動車株式会社、須賀川市役所、福山通運株式会社、福島県南酒販株式会社、東洋ワーク株式会社、株式会社郡中本店、株式会社 WITH 保育所まゐむ東大前園、株式会社 WITH ういず千住曙町保育園、一般社団法人脳神経疾患研究所南東北こども学園

(備考)

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
健康栄養学科	47 人 (100%)	44 人 (93.6%)	2 人 (-%)	1 人 (-%)	0 人 (-%)
幼児教育学科	89 人 (100%)	71 人 (79.8%)	0 人 (-%)	6 人 (-%)	12 人 (-%)
地域創成学科	70 人 (100%)	69 人 (98.6%)	0 人 (-%)	1 人 (-%)	0 人 (-%)
合計	206 人 (100%)	184 人 (89.3%)	2 人 (-%)	8 人 (-%)	12 人 (-%)
専攻科	3 人 (100%)	3 人 (100%)	0 人 (-%)	0 人 (-%)	0 人 (-%)
文化学専攻	3 人 (100%)	3 人 (100%)	0 人 (-%)	0 人 (-%)	0 人 (-%)
専攻科	3 人 (100%)	3 人 (100%)	0 人 (-%)	0 人 (-%)	0 人 (-%)
幼児教育学専攻	3 人 (100%)	3 人 (100%)	0 人 (-%)	0 人 (-%)	0 人 (-%)
合計	116 人 (100%)	105 人 (90.5%)	4 人 (3.4%)	7 人 (6.0%)	0 人 (0%)
(備考)					
幼児教育学科 その他 12 名のうち卒業延期 5 名（卒）、長期履修コース 7 名（留）					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)

本短期大学部における授業計画（シラバス）は科目名・担当者・開講期・対象者・授業概要・達成目標・受講資格・成績評価方法・教科書・参考書・学生への要望・オフィスタイムの項目から成っている。また授業内容とスケジュールとして各回の項目・授業内容を公開するとともに、各回で自学自習すべき内容・目安時間を提示することとしている。

シラバスの作成に関して、本短期大学部では記載漏れ等がないか教務委員によるチェックを行っている。指定期日（3月10日頃）までに授業の主担当者はシラバスを作成し履修登録用システムに登録するとともに、教務委員へシラバスの提出を行う。提出されたシラバスは教務委員により必要事項が正しく記載されているか確認表をもとにチェックが行われる。シラバスに不備がある場合は授業の主担当者へ不備事項が連絡されるので、主担当者は再度修正ののち指定期日（3月末日頃）までにシラバスをシステムに登録するとともに、修正したシラバスを教務委員に提出する。教務委員は提出されたシラバスを確認し、問題がなければ確認表とシラバスを教務部に提出する。以上の手続きによりシラバスは確認されシステムと紙媒体に保存される。以上の手続きにより、学生に公開されるシラバスの適切性を担保している。

授業計画の公表時期は、学内には4月第1週（学生へのオリエンテーション前）に公開している。これは学生の授業選択に活用できるようにするためである。また学外には5月下旬に本学のウェブ上で公表している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

卒業の認定および学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）の策定は、各学科にて策定し、認定方針を短期大学部として確定・公表することとしている。

卒業の認定・学位授与方針は学科毎に異なる。

健康栄養学科

学科の目的に鑑み、本学所定の単位を修得し、次の成果が得られた学生に卒業を認定し、短期大学士（家政学）の学位を授与します。

- 1) 食と健康の関わりについて科学的に理解する能力を修得している。
- 2) 健康的な食生活を実践するための基本的技術が身につけている。
- 3) 食と栄養の専門性を発揮して、サービスの精神に基づいて社会に貢献する素養が身につけている。
- 4) 論理的思考と倫理観によって、食と栄養に関わる諸問題に対処する能力を修得している。
- 5) 卒業要件を満たし、GPA1.6 以上を修めている。

幼児教育学科

幼児教育学科所定の単位を修得し、以下の知識・能力を身につけ、GPA1.5 以上の学生に対して卒業を認定し、短期大学士（教育学）の学位を授与します。

教育・保育の本質を理解し、保育者としての専門性を身につけている。専門性とは下記のとおりである。

- ・教育・保育を総合的に計画して実践できる力を身につけている。
- ・多様な子どもを支援するための方法や技術を身につけている。
- ・教育・保育に関する課題や問題を解決する能力が育っている。
- ・幅広い教養を身につけ他者と関わる力を身につけている。
- ・チャイルド・ミュージックコースにおいては、一定水準以上の音楽表現力が身につけている。

地域創成学科

建学の精神に基づく教育目的に従い、以下に掲げる知識や資質を身につけ、所定の単位を取得した GPA1.4 以上の学生に対し、短期大学士（地域創成）の学位を授与します。

- 1) 身近な生活圏の歴史や文化を理解し、専門教育の実践を通して地域社会に貢献できる力を身につけている。
- 2) 個々の感性を生かす柔軟で応用力のある創造的思考力を身につけている。
- 3) 地域社会において柔軟に対応できるコミュニケーション力を生かしながら、現代社会の多様な課題を発見し、それらを自らの力で分析・解決する能力を身につけている。
- 4) 専門的知識を活用しながら論理的に課題を探究し、他者と協調して問題を解決していく主体的行動力を身につけている。

専攻科文化学専攻

以下にかかげる知識や資質を身につけ、所定の単位を修得し GPA2.0 以上の学生に対して本学が評価を行い、「大学評価・学位授与機構」が審査し、学士（文学）の学位を授与します。

- 1) 専門的科目において、専門的知識を修得している。
- 2) 専門的科目において、研究能力が身につけている。
- 3) 研究課題を適切な歴史学のテーマに設定する知識が身につけている。
- 4) 研究課題の成果である論文を論理的、創造的にまとめる力が身につけている。
- 5) 歴史学を専攻する学士（文学）の学位を取得することで、社会教育の充実発展に寄与できる能力が身につけている。

専攻科幼児教育学専攻

専攻科幼児教育学専攻の所定の単位を修得し、学位授与機構の最終試験に合格し、以下の知識・能

力を身につけ、GPA2.0以上の学生に対して修了を認定し、学士（教育学）の学位を授与します。 1) 専門的学識：社会や保護者のニーズに対応でき、幼児教育・保育に関する高度な専門知識を修得している。 2) 問題発見・解決力：多様化・高度化する幼児教育・保育の課題を自ら見つけ出し、調査・考察などに基づいて、問題を解決する能力を身につけている。 3) 社会貢献力：保育者としての責任のある行動をすることにより、他者と協働して幼児教育・保育の発展に積極的に貢献しようとする意欲・態度を身につけている。 4) キャリア形成力：保育者として教養のある幅広い知識を持ち、生涯にわたって幼児教育・保育への関心・情熱と学習意欲を持続することができる。 卒業認定は教授会にて行っている。2年次成績の確定した3月上旬に、事前に主任教授会（出席者：学長、各学科主任および副主任）内において、各学生の単位取得状況・生活状況などを、卒業の認定方針に基づき、卒業の可否を確認している。その後、教授会にて各学生の単位取得状況・生活状況などを確認し、卒業の認定方針に基づき、卒業の可否を判定している。				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
郡山女子大学 短期大学部	健康栄養学科	62 単位	有・無	54 単位
	幼児教育学科	62 単位	有・無	58 単位
	地域創成学科	62 単位	有・無	58 単位
郡山女子大学 短期大学部 専攻科	文化学専攻	62 単位	有・無	単位
	幼児教育学専攻	62 単位	有・無	単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：本学のホームページにより公表している。 https://www.koriyama-kgc.ac.jp/campus/guide (キャンパスライフ・キャンパスガイド) https://spacely.co.jp/conview360/kgc (WEBキャンパスツアー) https://www.koriyama-kgc.ac.jp/aboutus/shinsai (大学概要－表紙－郡山女子大の取り組み－震災関連情報－耐震化状況表(PDF))
--

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
短期大学部	健康栄養学科	760,000 円	220,000 円	391,000 円	施設充実費 157,000 円 教育充実費 234,000 円
	幼児教育学科	760,000 円	220,000 円	391,000 円	同上
	地域創成学科	760,000 円	220,000 円	391,000 円	同上
短期大学部 専攻科	文化学専攻	760,000 円	220,000 円	391,000 円	同上
	幼児教育学専攻	760,000 円	220,000 円	391,000 円	同上

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

(概要)

開学以来、学生支援体制の一環として、建学の精神の下に S.P.S. (Student Personnel Services = 厚生補導・学生助育) の精神を生かしたアドバイザー制が実施されている。アドバイザーは所属学科クラスの助言教員として学長から任命され、学生生活部による学生支援の構成員となっている。教員と学生との人間的触れ合いを通し人間形成を行おうとするもので、教育目標の達成と学生の入学目標の実現に向けて学生を支援することに重点を置いている。

アドバイザーは学生の最も身近にいる教員として、入学から卒業まで、学生生活全般にわたる助言指導を行う。学生一人ひとりの様々な状況を把握理解し、見守ることにより、学生が安心して生活できるよう支援する。アドバイザーの具体的な支援内容には、①人間形成に関わること、②学業に関わること、③進路に関わること、④生活に関わること、⑤心身両面の健康な生活に関わることなどがある。学業については、履修指導をはじめ、単位修得・資格取得・成績について各学生の状況を把握し、学生の入学目標実現に向けて個々に助言指導を行っている。学生生活部は、より充実した学生支援のために、学内各部署と連携し、支援内容および留意点を記載した『アドバイザーの手引き』の配布や「学生指導研修会」を開催するなど、アドバイザーのサポート体制を整えている。さらに学生に対しては、学生生活に関する学内情報提供や安心安全な生活支援として、『学生生活の手引き』、『新入生へのメッセージ』、薬物乱用防止パンフレット、悪質商法被害防止パンフレット等の配付に加え、犯罪被害防止に関する講話や実技訓練を行う講習会の開催、月に一回福島県警察本部少年女性安全対策課より配信される犯罪被害情報(性犯罪被害)を学生へ転送し、安全への注意喚起を行っている。

授業料等の納入猶予については、下記の通り実施している。

日本学生支援機構の給付奨学金の採用候補者である入学者については、入学者選抜合格時の申し出により、入学金以外の入学手続時納付金(前期分授業料及び施設充実費、教育充実費等)の納入を猶予している。納入猶予を受けるためには、「修学支援新制度による納入猶予申請書」(本学独自様式)の提出に加え、「大学等奨学生採用候補者決定通知【進学先提出用】」(JASSO 発行)の写しの提出を条件としている。合格時点で、予約採用の選考結果が出ていない場合についても、奨学金申込み時の受付番号を記入した申請書を提出することにより納入猶予の申し出が可能であり、日本学生支援機構より決定通知が届き次第、その写しの提出を義務付けている。ただし、選考の結果、給付奨学金が「不採用」となった場合は、前述の申し出は無効となる。授業料等の納入猶予は、入学後に給付奨学金が正式に採用決定されるまでとしている。また、上記に該当しない入学者からの授業料納入猶予の申し出や相談についても、できる限り柔軟な対応(個別対応)を行っている。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

学生が社会的職業的自立を目指し、自分らしい生き方で社会貢献ができるように就職委員会、教養・キャリア教育委員会、各科アドバイザーと相互に連携を取りながらキャリア教育・就職支援を行っている。

オンライン(Web)で採用選考を実施する企業が増え、従来の対面対策とオンライン対策でWeb場所の設定を行っている。就職ガイダンスでもオンライン対策を入れて、円滑な就職活動が行えるように支援を行っている。また、就職対策講座のフォローとして、キャリアアップセミナーを実施して、実践で役に立つ就職活動の支援を16コマ実施している。学生の状況に応じて模擬面接(集団面接、個別面接練習)も実施している。キャリア教育のキャリアデザインⅡではインターンシップを実施して、就業体験を通して具体的な将来の設計や進路選択で職業理解を深めている。その他、各種講座を実施しながら、就職活動に臨む学生に対し自己理解を促し、各自が適職や適応性を判断して就職活動ができるように支援している。ネット上での求人情報提供や履歴書・エントリーシート添

削はメールでも実施して、就職相談はキャリアコンサルタント資格を有する職員を中心に学生の希望により、オンライン面接も実施している。また、本学では毎年、学習成果や職場での評価を把握するために、アフターケアや職場開拓で、就職先企業を訪問して卒業生の状況を確認している。就職先や卒業生のアンケートも同時に実施して、結果を教育現場にフィードバックを図り改善に努めている。9月から12月にかけて、短大1年時全員に面談を行ない就職登録カードを基に各個人の希望を実現するために、きめ細かな就職支援を心がけている。経済状況の変化もあり、一般企業の一般事務の求人件数の減少もあるが、学生に寄り添った着実な対応で進路支援を実施している。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

学生の心身の健康相談・生活相談については、アドバイザー、保健室、学生相談室、障がい学生支援室、及び学生生活部が、相互に連携し対応している。

保健室には看護師免許・産業カウンセラー資格を有する係(1名)が常駐し、助産師・看護師免許・産業カウンセラーの資格を有する教員(1名)が保健室長、看護師免許・社会福祉士資格を有する教員(1名)が副室長、医師免許を有する教員(1名)が顧問、その他、各学科所属の教員(14名)及び保健体育・管理栄養士・看護師の資格を有する教員(3名)が保健室担当者を務めている。主な内容は、学校医による健康診断ならびに健康診断書の発行を行う他、傷病学生への応急手当、医療機関の紹介、感染症や熱中症、薬物乱用防止等の予防啓発活動、健康教育(個人面談・「保健だより」の配信等)、健康相談等である。精神的悩みを有する学生がみられた場合には、各学科のアドバイザー・学生相談室・関連医療機関と連携し、メンタルヘルスケアやカウンセリングの体制を整えている。

学生相談室は、公認心理師・臨床心理士の有資格者である室長を含め、7名の教員が相談業務を遂行している。新入生オリエンテーションでは「学生相談室リーフレット」を配布し、学生相談室の役割と利用方法について周知している。また学生が抱える問題を早期に把握するため、新入生および調査を希望する学年に「学生精神健康調査(UPI調査)」を実施し、学生のメンタルヘルスの傾向分析と、個別の支援体制について検討し、対応に当たっている。全学科に対し前期は「学生相談室だより」の掲示を依頼し、後期は全学生を対象にしたストレス軽減プログラム「めばえサロン」をオンラインで実施している。さらに、相談室委員のスキルアップのため、専門家の意見を聞くためのスーパーバイズを実施している。

障がい学生支援室においては、特別支援教育学や障害学の学位を有する3名の教員が、障がいがある学生や障がいがあるかどうか確定はしていないが支援を求める学生について相談支援業務を担当している。支援は学生が学生生活部に「支援申込書」を提出することで開始するが、提出までに学生や保護者との面談や各学科のアドバイザーや障がい学生支援委員との打合せを実施する。申込書の受理後、支援が確定したところでその内容に従って支援をスタートさせる。支援の内容は、学内の移動、施設・設備・支援機器・用具の利用、教材や情報伝達、コミュニケーションの配慮、履修登録や学習支援、定期試験に関する配慮、その他学内生活全般にわたる配慮等である。支援室スタッフが支援を要する学生と定期的に面談し、学習や生活の現状を把握している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：本学のホームページにより公表している。

<https://www.koriyama-kgc.ac.jp/aboutus/kyoiku>

(教育情報の公開－教員組織、教員数並びに教員の保有する学位・業績－
年度毎の研究業績・社会活動) (教育情報の公開－FD・SD活動報告)

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

- ※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。
- ※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F207310101367
学校名（〇〇大学 等）	郡山女子大学短期大学部
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人郡山開成学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		72人（ ）人	69人（ ）人	77人（ ）人
内 訳	第Ⅰ区分	33人	32人	
	（うち多子世帯）	（ ）人	（ ）人	
	第Ⅱ区分	22人	—	
	（うち多子世帯）	（ ）人	（ ）人	
	第Ⅲ区分	—	18人	
	（うち多子世帯）	（ ）人	（ ）人	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	—	—	
	区分外（多子世帯）	人	人	
家計急変による 支援対象者（年間）				—（ ）人
合計（年間）				79人（ ）人
（備考）				

- ※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。
- ※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定		0人	0人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）		0人	0人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況		0人	0人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。		0人	0人
計		0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間		前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学(3月未満の期間のものに限る。)又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1		0人	0人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が警告の基準に該当)		0人	0人
GPA等が下位4分の1		0人	0人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況		0人	0人
計		0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。